

ふじみ野市横断歩道橋長寿命化修繕計画

令和5年3月策定



1. 背景と目的

本計画の対象施設は、ふじみ野市が管理する横断歩道橋3橋とします。
 本市で管理する3橋の横断歩道橋は、1996年および2021年に設置され比較的新しい施設であるが、1996年に設置された横断歩道橋は既に20年以上が経過していることから、施設の老朽化が進んでいます。
 これらの横断歩道橋に対して適切な補修を行わず、さらに老朽化が進まると、崩落事故等による人命の危険性や通行規制による社会的損失、大規模改修による膨大な費用の発生など、多くの問題を抱えることとなります。

2. 計画期間

令和5年度（2023年度）～ 令和9年度（2027年度）【5年間】

『ふじみ野市横断歩道橋長寿命化修繕計画』の計画期間は5年間とします。
 なお、今後の点検結果や対策経過等により適宜見直し、PDCAサイクルに基づき進めていきます。

3. 対象施設の健全性

対象施設の現状を把握するため、令和4年度において、対象施設について近接目視による定期点検を実施しました。
 点検の結果、老朽化が一部見られる横断歩道橋も確認されましたが、早期あるいは緊急に措置が必要な横断歩道橋はなく、現状では概ね健全性は保たれている状況が確認されました。
 対象施設全体の健全度評価結果は以下のとおりです。

判定区分	施設の状態	施設数
I 健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態	2橋
II 予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態	1橋
III 早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態	0橋
IV 緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態	0橋

点検状況(西沼歩道橋)

点検状況(葦原歩道橋)

7. 個別の構造物ごとの事項

No.	構造物の諸元							直近における点検結果			次回定期点検実施予定年度	対策計画					
	路線名称	橋梁名 フリカナ	架設年次 (西暦)	経過年数	幅員 (m)	橋長 (m)	構造形式	実施年度	健全性			対策内容	対策の着手 予定年度	完了 予定年度	全体概算 事業費 (千円)		
									健全性	主要部材						主要部材外	
1	市道H-37号線	西沼歩道橋	ニシヌマトウキョウ	1996	26	2.60	24.20	鋼	R4	I	I	II	R9	監視	-	-	-
2	市道H-36号線	葦原歩道橋	アシハラトウキョウ	1996	26	2.50	16.50	鋼	R4	II	II	II	R9	維持工事	-	-	-
3	市道幹線2号線	上福岡東口駅前歩道橋	カミツクサガシガチキキホトウキョウ	2021	1	2.40	88.00	鋼	R4	I	I	I	R9	監視	-	-	-

4. 長寿命化修繕計画における基本方針

これまでの損傷が深刻化してから修繕を行う“事後保全”による維持管理では、修繕費や周辺影響が多大となるとともに、横断歩道橋の寿命を縮めることが懸念されます。
 ふじみ野市としては、今後、定期的な点検を実施して損傷の早期発見を図り、損傷が深刻化する前に修繕を行う“予防保全”による維持管理を進めることを基本とし、施設の長寿命化によるライフサイクルコストの縮減、修繕費用の平準化により、将来にわたって安全・安心な通行空間を確保していくことを目指します。
 また、横断歩道橋の維持管理に係る新技術等の活用や、施設の必要性評価に基づく費用縮減方策についても検討していきます。

管理種別	修繕検討段階	必要修繕費	架替時期
事後保全	損傷が著しい状況となった時点で、大規模な修繕もしくは架け替えを検討	損傷が深刻化しているため、修繕には多大な費用を要する	施設の寿命が短くなるため、架け替えまでの期間は短い
予防保全	損傷が比較的軽微な時点で、予防的処置の観点より修繕を検討	小規模な修繕で済むことから、修繕費用は安価となる	施設の寿命が長くなるため、架け替えまでの期間は長くなる

5. 修繕の優先度に関する考え方

修繕の優先順位は、点検結果に基づく“施設の健全性”のほか、“第三者への影響度”等を総合的に判断して設定します。

評価項目	評価指標
健全性	健全性III以上の評価となる横断歩道橋を最優先として修繕を計画します。
第三者被害	第三者被害を考慮し、交差物件を踏まえて優先的に評価します。

6. 長寿命化修繕計画による効果

- 健全度の向上**
定期的な点検を実施し、現状を把握しながら適切な修繕工事を計画的に実施することで、施設の健全性が維持され、安全・安心な通行空間が確保されます。
- 環境負荷の低減**
施設の長寿命化により、工事に伴う建設廃棄物やCO2の発生量が抑制され、地球環境への負荷低減に寄与します。
- コストの縮減**
予防保全による計画的な修繕計画により、効果的な維持管理が実現され、ライフサイクルコストの縮減が図られます。
- 予算の平準化**
修繕に係る費用を予測して、予算平準化を図った修繕計画を策定することで、計画的な修繕が可能となります。